

平成22年度第1回都市経営会議

日時 平成22年4月21日（水）14:30～15:30
会場 市長応接室
参集者 西尾市長 小柏副市長 多賀谷教育長 中林水道局長
渡辺企画部長 上戸総務部長 片岡財務部長

議 題 国際水産・海洋総合研究センターの施設概要について

◎対 応 藤田企画部参事 本吉同部参事 山田農林水産部長 谷崎同部次長
佐藤同部企画調整課長 川村財務部財政課長

◆ 議題の趣旨 ◆

国際水産・海洋総合研究センターの整備にあたり、平成22年度は基本設計を行うこととしており、それに先立ち、主な施設の機能や規模等施設の概要について協議・確認を行いました。

◆ 協議の結果 ◆

施設の整備については、景観に配慮するとともに利用を予定している機関等の意向を十分に踏まえた基本設計となるよう配慮することとしました。

◆ おもな意見 ◆

■ 藤田企画部参事

建物は共同利用本館、海水取水施設、飼育棟、海洋調査研究施設の4施設、合計7,000㎡を考えている。施設の利用を予定している北大大学院水産科学研究院やはこだて未来大学、函館国際水産・海洋都市推進機構などで構成する建設検討準備会で検討し、その中で施設の内容、規模などについて提案していただき、それらを踏まえて研究室や共同実験室など各種の設備を7,000㎡の中で配置案としてまとめ、準備会で確認をし、今後、基本設計の中で協議を進めていく。国の研究機関等の誘致を図るための研究室も用意することとしている。来月には委託先を決めて基本設計をまとめていきたい。また、施設の利用方法についても関係機関と検討委員会を作って協議し、より使い勝手のよいものにしていきたい。

■ 西尾市長

研究室の広さは十分なのか。

■本吉参事

現時点では十分と考えているが、今後、基本設計の中で変わる可能性もある。

■西尾市長

設計は入札なのか。金額で決めるよりはプロポーザルの方がよいのではないか。全国的な業者と地元業者のジョイントも認められるのか。

■小柏副市長

金額だけで決まるのは好ましいことではない。

■藤田企画部参事

基本設計では目新しいことを企画するわけではなくて、既にこれまで関係機関と協議してきている機能面をどのように組み入れた設計にするかということが重要になるので、プロポーザルでなくてもよいのではないかと思う。委託先の募集にあたっては設計に関する実績など、一定の条件も付して公募したいと考えている。

■渡辺企画部長

契約審査会でも協議してもらうが、地元企業も含めることを条件として、ジョイントを認める方向で考えている。

■西尾市長

思い入れのある建物だから外観も含め考え方を大切にしたい。

■渡辺企画部長

デザイン性などは設計の段階で考えていくことになると思う。

■小柏副市長

設計の過程で、景観アドバイザーと協議するのか。

■渡辺企画部長

景観アドバイザーとも相談しながら設計を進めることとなる。

■西尾市長

募集の際に参考資料として配置図などがあると、その資料に影響される可能性もある。必要な面積だけでプロポーザルをやれば、色々なアイデアが出て良いものになるのではないか。

■本吉参事

基本設計にあたっては関係機関と協議することを条件にしたいと考えている。

■渡辺企画部長

どういう仕様にすべきか検討したい。提案されたものについては建設検討委員会で協議をすることになる。

■西尾市長

それであれば入札でも構わない。規模等は利用を予定している機関等と協議しているのか。

■藤田企画部参事

概ね了解を得ている。あとは飼育棟と研究棟を一体化するのが良いのか、また、建物の形としてどういう形が良いのかなどのデザイン的な話はある。

■西尾市長

施設の位置については、ドック側と緩衝地帯も設ける必要があるだろう。荒天時の風や波等への対応も考えると敷地の中央部に整備するのがよいと思う。

■中林水道局長

共同研究室については、特許性のあるものについてこそ研究してもらう意味が大きいから、共同で研究ということにはならないのではないかと。この施設の概要では水産分野は良いが設備的には海洋研究についてはどうか。

■渡辺企画部長

高度な海洋研究などもできればよいと考えている。大きな実験もできるなら最も望ましいと思う。実証実験などもできる汎用性のある施設なども考えていきたい。

■藤田企画部参事

民間研究機関からも入居希望が寄せられている。それもあわせて多様な分野を考えていきたい。

■上戸総務部長

増設は可能か。

■渡辺企画部長

今後も、研究機関等の誘致をしていきたい。この施設はその呼び水と考えたい。

■西尾市長

増設は考えるべきではないのか。

■藤田企画部参事

市民交流エリアが増設できるスペースになる。

■西尾市長

研究センターの設計概要については了解した。研究機関等の誘致については、引き続き努力してほしい。